

揺らぐ景色は八方道を消し去る
取り残されたなら辿り着くのは
永遠同じ木の下
気付いた時には手遅れ

潜み狙えば一斉悲鳴共鳴
歪んだ顔に乗せ
完全無欠に一步近付くのなら
繰り返すのさ 箱庭を

紛れ込む知らない匂い
心地良さに惹かれていく
妖艶に絡む眼差しに奪われたものは何だ？

灼かれ
幾世焦がれ続けて
君を呼び
名も忘れる前に
痛み 嘆き
どちらでもない畏れを咲かせて尚行くのだろう
渴望

目に見えない
影捉える
押し潰され
地を離れて
限界まで
果ては無くて
逃げ続けて
立ち向かうなら
牙を剥いて
手を差し伸べ
震え続け
悠然として
疲れ果てて
気力満ちて
過去を閉じる
明日へ

日暮れ

時雨

浮かれて沈め

空の端にも届かないけど

十重に二十重に年を重ねてゆくから

一期一会の答え

灼かれ

幾世焦がれ続けて

君を呼び

名も忘れる前に

痛み 嘆き

どちらでもない畏れを咲かせて尚行くのなら

先へ